

誰もが抱える悩みを。パッと解決！

福田貴一先生の 「福」が来るアドバイス



早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田 貴一

効果的な思考力の身につけ方とは？

小学校では4月から新学期ですが、進学塾では、お子様たちは一足早く新学期を迎え、一歩、受験に近づいていくと聞いています。昨今では、中学受験の出題傾向も変わり、より、思考力を問う学校が増えてきました。思考力は必ず身に身につくものではありませんので、低学年の早いうちから、学習方法を定着させ、「考えること」を習慣づけていくことが大切です。それでは、思考力を養うために必要なことは何か考えてみましょう。

中学受験におけるふたつの「なぜ」

中学受験に向けた学習は、知識を学ぶのではなく、思考方法を身につけるというふうに理解いたたくと分かります。たとえば、国語の漢字学習ではその漢字を覚えることも必要ですが、自分に合った漢字の暗記方法を身につけるために行っているとお考えください。このことから、早い段階で漢字の学習が完璧にできていることを求めるのではなく、自分に合った効率的な暗記方法を定着しているかどうかをチェックすることが大切になってきます。

このように、各科目の学習において、その科目に必要な思考方法を学ぶというわけですが、その中で、非常に大切な思考が、「なぜ」と考えるという点です。どんな科目であっても、原因と結果をしっかりつかみとることができなければ、本質的な理解にはつながりません。「なぜ」と考える習慣をつけるようにしていただければ、成績は伸びてくるはずです。

最近の中学入試における国語の問題では、因果関係を問う記述の設問が増えています。「傍線部」は「森林の持つ柔軟さが年を経るにつれて薄らいできている」とあり、その「森林」の持つ柔軟さが年を経るにつれて薄らいできているという注釈がつけられているのですが、「なぜ」に食塩を溶かして



いこの間にかはれてしまっているかと感じてしまう。この問題が解けるようになるためには、公式の意味を考えて理解しておく必要がある。言い換えれば、「なぜ」という公式で求められるのかを考えるようにすることが必要だと感じることがある。この場合、自分の両隣には対角線は引けないので、(N-1) × (N-1) として、それが頂点の数だけあるので、(N-1) × (N-1) の計算だと対角線の両側にある頂点から1回数えていることになるので、(N-1) × (N-1) / 2 になる。このように理解しておけば、忘れてしまっていることはないはずだ。

理社の学習でも「なぜ」と考えることはとても大切なことだ。社会では歴史的な事件の原因を「なぜ」と問う記述問題が出題され、理科でも身近な現象の原因を考えさせる問題が出題される。ある難関校で以前、真水と食塩水を見分けさせる問題が出題されたことがある。もちろん、舐めてはいけませんという注釈がつけられているのですが、「なぜ」に食塩を溶かして

なさい」というようなものです。このような設問に対しては、因果関係を「段階」ではなく、もう一段階深く考えて解くことが必要になってきます。私は授業の中で、「なぜ」ともう一回考えなさい」と教えています。先ほどの例に対する「段階」の原因が「天然の広葉樹林が伐採され、人工の針葉樹林へと変えられたから」というものだとすれば、その「もう一回、なぜ」と考えて、その原因を考える読み取るようにしなさい」という指導です。二段階目の原因が「日本の高度経済成長に伴う木材需要の増加」ということになれば、それらをまとめて解答を作り上げることで、満点解答ができてしまうというわけです。このような因果関係をつかむ思考は、論理的思考が必要な説明的文章に対する考え方のよい例に思われますが、実は物語などにも応用が利きます。

物語で「番外」出題されるのは、「行動・表情の理由を問う設問」です。例えば、「傍線部」は「ポロポロと涙をこぼした」とありますが、それはなぜですか」というような問題です。物語文が出題されるほとんどの学校で出されるタイプの設問だと思っただいて構いません。この問題に対しては「原因」となる事実「を考へて」という指導から生まれる「心情」を書きなさい」という指導をすることになります。人間の表に現れる「行動」や「表現」の裏側には、必ずその段階における「心情」があり、そこが問われているわけです。この解答方法を先ほどの因果関係にあてはめて考えると、「心情」が「段階目の原因」となる事実「が」二段階目の原因となり、同じ図式で思考し、解くことができるわけです。

算数に関しては「なぜ」と考えることで解き方が定着していきます。中学入試にはさまざまな公式や解き方が存在しますが、そのすべてを暗記して適用するという学習方法では、現在の中学入試には対応できません。今から数十年前の中学入試であれば、設問パターンも限られていたため、そういう「詰め込み型」もしくは「パターン学習」で攻略することもできたのですが、今の入試問題は出題パターンや考え方も様々な変化し、複合的な問題も増えてきているため、自分の力で解き方を考えることが絶対に必要となります。N角形における対角線の本数を求める公式を例にとり考えてみます。公式は、(N-1) × (N-1) / 2 という形になります。この公式を単純に覚えて、それをあてはめて解けばいいと思っても、なかなか覚えておけるものではありません。それほど頻繁に使う公式ではありませんが、このあたりから声小さくなっていきます。決して声を荒げるのではなく、静かに問いかけを続けていくと、最終的に宿題をやらなかった原因に突き当たります。大きな声で叱るよりも、効果は間違いなく高いはずです。朝が弱いわけではないのに、起こされるまで起きず、毎朝お母様と喧嘩になるという相談をいただいたご家庭に、この方法をアドバイスしたところ、すぐに改善されたというご報告もいただきました。

お子様と真剣にお話したいだけでなく、ぜひ「なぜ」を使ってみてください。多くのお子様は、今、学習する理由を漠然として理解できていないはずです。口先では「中学受験で合格するため」「いい学校に入るため」とは言いますが、その本質的な理解はできていないと思います。その状態では、学習を継続していくためのモチベーションとして、決して十分とは言えません。

志望校が決まっているお子様であれば、なぜその学校なのか、まだ決まっていないお子様であれば、なぜ中学受験をするのか、という質問をスタートラインとして、話を始めていただきたいと思います。そして、それはお子様に対してだけでなく、保護者の皆様自身に対しても行っていただきたい問いかけなのです。なぜ、お子様に中学受験という選択肢を選んだのかという問いかけ。

ブログ 四つ葉Café ◆公開中！



小学校低学年からの中学受験 四つ葉Café 小3・小4 責任者 福田 貴一

早稲田アカデミーホームページ「四つ葉 café」にて公開 詳細はホームページをご確認ください。 早稲田アカデミー 検索